



紙の上の対話

犬山紙子

今現在、塗り絵の線画を一日中スケッチブックに描いている。三歳の娘が起きてから寝るまで塗り絵塗り絵塗り絵というハマりぶりです。「うさぎのママを描いて、ハートの風船持ってるの」「プリンセスになったパパを描いて」とリクエストされるからだ。これまで仕事でイラストを描いてきたが、ここまで一日中絵を求められ続けることはなかった。

もちろん大変である。プリンセスの似たような構図の線画を毎日毎日描くのだから。でも、ひとたびペンを握れば「めんどくさい」から「わくわく」にスイッチが切り替わる。それはペンを握り紙を触った瞬間、パプロフの犬よろしく自動で切り替わるのだ。「絵を描くことは喜

びである」と幼少期に感じ、そのまま思春期を過ごしたのだからこの感覚が消えることはそうそうないだろう。

特に思春期は「オタクだ」と言われるのが怖くて絵を人前で描くことができなくなっていた。授業中こっそり描くか、自分の部屋で誰かが急に入ってこない時間にやっと描ける。絵が描ける時間＝解放だった。

そう考えると私は塗り絵の線画を描く時、母親として描いているんだらうか。確かに請け負う時は母親目線だ。「背景まで描いて長いこと塗ってもらって時間を稼ごう」とか「リクエスト以外の要素も入れて想像力を使ってもらおう」だとか。でもペンを握ると私も少女に戻っているような気がする。思春期に蓋をしていた気持ちが溢れ出ている。「絵を描いて、誰かに見てもらいたい。誰かと絵を見せ合いたい。語り合いたい」という気持ち。絵を通して承認し、されたかった。これは私の成仏しない欲求だ。まさかこの承認欲求が娘のために線画を描く時にまで顔を出すなんて。

娘は「自分、ママ、パパ、おじいちゃん、おばあちゃん、お友達」が「デイズニープリンセス、うさぎ、猫、妖精、花」



いぬやまかみこ ● イラストエッセイスト、コラムニスト。仙台の地方誌の編集者を経て東京。東京での6年間の生活の間に会った女友達の恋愛模様をイラストとエッセイで書き始めるとネット上で話題になりプログラムを出版デビュー。以後、雑誌、テレビ、ラジオなどで活躍中。2014年に結婚、17年に第一子の長女を出産してから、児童虐待問題に声を上げるタレントチーム「こどものいのちはこどものもの」を立ち上げ、社会的養護を必要とする子どもたちにクラウドファンディングで支援を届けるプログラム「こどもギフト」メンバーとしても活動中。

になっっている絵を主に求める。身近な人を娘の好きな世界に溶け込ませたいだろう。わかる、わかるよ。好きな世界の絵はいつだって描いていたいよね。私にはもうそこに自分や家族の絵を入れるような純粋さはないけれど、好きなキャラクターの絵は何回描いてもどれだけ同じような構図でもまた描きたい、一緒だよ。よし、じゃあ今回のプリンセスに動きをつけてフリルが魅力的に見えるようにしてみようか。パンツスタイルのプリンセスもまた新しい魅力があるかもしれないね。そうやって娘の好きな世界の解像度を上げていく。思春期から冷凍保存されていた私の心の一部もほぐれていく。

ザラツとしたスケッチブックに柔らかなクレヨンで線画を彩る娘。紙の上で、私の好奇心と娘の好奇心が重なり合う。これは私が求めていた対話の一つなんだと思う。

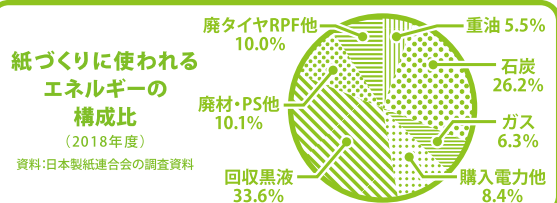
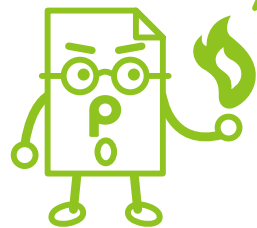
そうやって完成した塗り絵はどうしても捨てることはできず、かさばるのに全部取ってある。今だけの、私と娘の紙の上のコミュニケーションだ。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

紙になった後のもうひと頑張り。

原料となる木材の繊維部分は紙づくりに、繊維を取り出して残ったその他の部分(黒液)はエネルギーに。紙をつくるときに使われるエネルギーの約30%が、この黒液(バイオマス)^{*}でまかなわれているんだって。木材は大切な資源として、最後まで無駄なく使われているんですね。

*バイオマスとは、再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたものです。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

今回は7月2日号、夏井いつきさんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

Photo:Shiro Miyake